



PAUL M. THOMPSON

ポール・M・トンプソン

パートナー

ワシントン, DC

Tel +1 202 756 8032

Fax +1 202 591 2701

pthompson@mwe.com

ポール・M・トンプソンは複雑な刑事および民事事件においてクライアントを代理する。特にヘルスケア業界のクライアントを中心に、内部調査、任意開示、大陪審の調査、上訴審対応、議会調査などに豊富な経験を有する。ポールは、当事務所経営委員会と執行委員会のメンバーであった。2011年から2015年までは、当事務所ワシントンDCオフィスの代表パートナーであった。

- **複雑な刑事および民事ヘルスケア事件:** ポールは、刑事捜査や民事執行手続きの対象となっているヘルスケア企業の代理人を務めている。ポールの業務の大部分は、虚偽請求取締法、反キックバック法、スターク法に基づく申し立てに関する事件でクライアントを代理することに費やされている。さらに、内部調査、自己開示、コンプライアンスプログラムの更新、行政手続法に基づく訴訟などの支援も行っている。
- **反トラスト法に関する複雑な刑事および民事事件:** 司法省（DOJ）が実施する反トラスト法の刑事捜査や、司法長官が実施する反トラスト法の民事捜査においても、クライアントを代理している。並行して行われる民事の反トラスト法のクラスアクションにおいても、クライアントの代理を務めている。さらに、反トラスト法のコンプライアンスに関する研修を定期的に行い、反トラスト法のコンプライアンスプログラムの改訂を支援している。
- **議会調査:** 上院司法委員会、上院常設調査小委員会、下院エネルギー・商業委員会、下院監視・政府改革委員会など、注目を集める議会調査においてクライアントを代理している。
- **上訴審対応:** 米国控訴裁判所及び最高裁判所において、certiorari and merits の段階を含む 100 以上の事件において、上級控訴裁判所顧問を務めた。他にも、連邦仲裁法の解釈をめぐる事件について、米国最高裁判所にて Arthur Andersen を代理した。

2002年から2005年にかけては、ペンシルバニア州西部裁判所の *Attorney's Office* の上訴部門において補佐官を務めた。2005年から2007年まで、米国上院司法委員会のカウンセルを務め、ジョン・ロバーツ最高裁判事とサミュエル・アリート判事の上院承認公聴会に携わる。ペンシルバニア州西部地区連邦地方裁判所の元裁判長で、現在は連邦第3巡回区控訴裁判所の首席裁判官である D.ブルックス・スミス氏のロークラークを務めた経験もある。

National Law Journal, *Roll Call*, *Executive Counsel*, *Corporate Counsel*, the *Yale Law Journal Pocket Part* および the *Vanderbilt Law Review* で記事を執筆している。*Washington Business Journal*, *The Hill*, *Roll Call* および *Am Law Daily* といった大手の法律およびビジネス雑誌でポールは言及されており、*National Press Club* のパネリストも務めている。

実績

- DOJ による反トラスト法の犯罪捜査において複数企業を代理（2014年から現在）
- フォーチュン 500 社のヘルスケア企業を代理し、退役軍人省に対する過払い請求を米国連邦請求裁判所で請求した結果、同社は 5 億 3800 万ドルの和解金を得た（2013年から現在）
- 50 人以上を巻き込んだ C 型肝炎の集団発生に関連してノースダコタ州の連邦裁判所および州裁判所に提起されたクラスアクションにおいて、全国的なヘルスケアプロバイダーを代理し、クラスアクションの申し立てとすべての連邦請求を自主的に却下させることに成功（2014年から2016年）
- 医療施設における C 型肝炎の集団発生に関する内部調査において、フォーチュン 500 社のヘルスケア企業を代理し、現地弁護士との弁護戦略の調整、専門家の確保、原告および州保健局との問題解決を担当（2009年）
- フォーチュン 500 社のヘルスケア企業において、凶悪な従業員による 5 人の患者の殺害に関する刑事および民事調査を代理し、その結果、同社に刑事および民事上の罰則が科されることはなかった。（2008年から2009年）
- 虚偽請求取締法と反キックバック法に基づく民事犯罪捜査において、*Fortune 500* のヘルスケア会社を代理し、勝訴的和解（2010年から2014年）
- ニューヨーク州北部地区連邦地方裁判所において、ニューヨーク州上院の元多数党院内総務を代理し、陪審員裁判で 5 件の訴因について無罪を

勝ち取り、残りの2件については第2巡回区連邦控訴裁判所により逆転勝訴判決を勝ち取った。（*United States v. Bruno* 事件, 661 F.3d 733 (2d Cir. 2011)）

- 連邦仲裁法の解釈に関する事件において Arthur Andersen を代理し、米国最高裁判所において勝訴（*Arthur Andersen v. Carlisle* 事件, 129 S.Ct. 1896 (2009)）
- 合衆国最高裁判所（2015年）における婚姻禁止訴訟の請願者の支援のもと、ワシントンDCのMattachine Societyに代わりアミカスブリーフ（amicus brief）を提出。この件について、Mike Isikoffによるヤフーのドキュメンタリー「Uniquely Nasty: The US Government's War on Gays」を含む多くの報道がなされた。
- コロンビア特別区連邦地方裁判所において、マタシン協会の代理人としてFOIA訴訟に成功し、大統領令10450に基づくLGBT米国人の解雇に関するFBI記録の公表を勝ち取る（2016年から2017年）

表彰

- *Benchmark Litigation* 2013 to 2020, Litigation Star (white-collar and appellate)
- “Recommended” Lawyer in GCR100 Global Elite (for antitrust work) (2018)
- Burton Award for Distinguished Legal Writing 2011, for authoring, “Managing the Budget of an International White-Collar Investigation”
- *The Legal 500* 2012, 2017, 2018, 2019 - praised for “thorough subject matter expertise”
- *National Law Journal*, Appellate Hot List

コミュニティ

- Sandy Spring Friends School, 理事(2020-現在)
- ワシントン州市民権弁護士委員会, 理事 (2012-2019)

資格等

学歴

- Harvard Law School, JD, *magna cum laude*, 1998
- Harvard College, AB, *magna cum laude*, Phi Beta Kappa, 1991

弁護士登録

- コロンビア特別区

- ペンシルバニア

登録裁判所 / 政府機関

- 米国最高裁判所
- 米国第 1 巡回区連邦控訴裁判所
- 米国第 2 巡回区連邦控訴裁判所
- 米国第 3 巡回区連邦控訴裁判所
- 米国第 4 巡回区連邦控訴裁判所
- 米国第 9 巡回区連邦控訴裁判所
- 米国コロンビア特別区巡回控訴裁判所
- 米国連邦巡回区控訴裁判所
- 米国連邦請求裁判所